

■ブラジル：Enel、ブラジルの再エネ設備 54 万 kW を中国の中広核に売却

イタリアのエネルギー大手 Enel は 2019 年 1 月 16 日、子会社のブラジル法人 Enel Green Power Brasil (EGP Brazil) が所有、運転する再エネ発電設備 (合計 54 万 kW) を、中国広核集団 (CGN) の国際事業子会社 (CGNEI) に売却すると発表した。売却額は約 29 億レアル (約 870 億円) で、対象は北東部ピアウイ州の Nova Olinda 太陽光 (29 万 2,000kW)、バイーア州の Lapa 太陽光 (15 万 8,000kW) と Cristalândia 風力 (9 万 kW) の 3 カ所から成る。いずれの発電所も 20 年間の電力供給契約 (PPA) を既に締結している。Enel は自社の戦略 (2019-2021 Strategic Plan) に則り、BSO (Build, Sell, Operate) を通じた売却益をブラジル国内に再投資することで、ブラジル事業の拡大を進めるとしている。一方、購入先の CGNEI は中国広核集団 CGN が海外での非原子力事業を担う子会社で、これまでアジアや欧州、北米、アフリカの 14 カ国で発電事業を展開している。